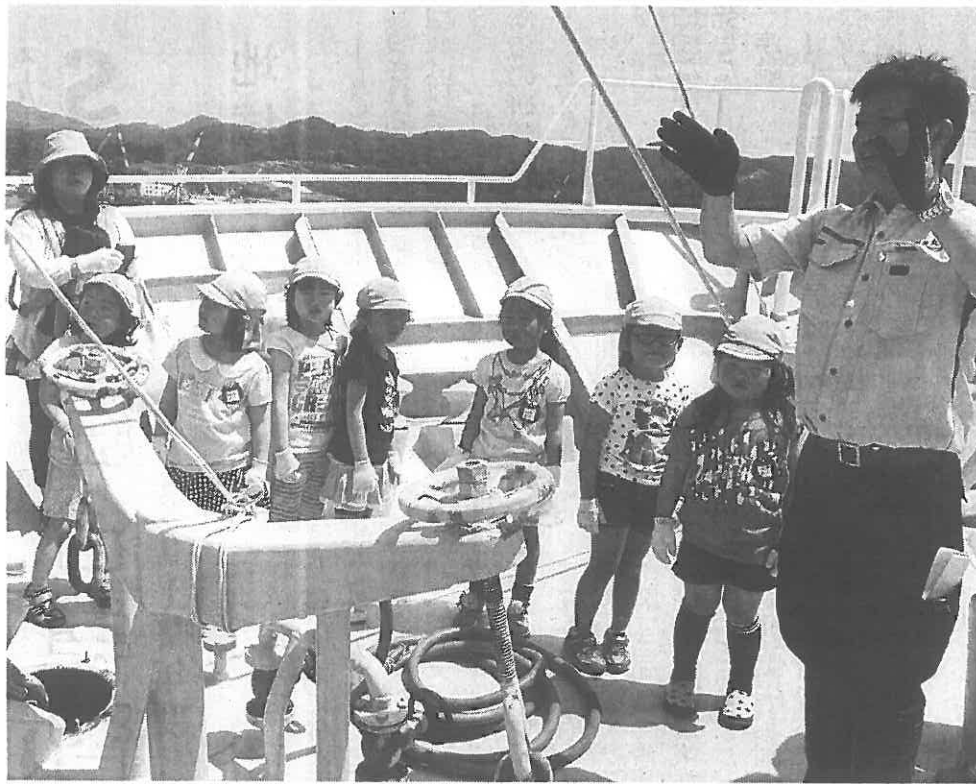


三陸新報

漁労設備に興味津々

気仙沼愛耕幼稚園 遠洋マグロ船見学



説明を受ける園児

気仙沼市の愛耕幼稚園(小山郁子園長)の子供たちと保護者が16日、港町岸壁に停泊している遠洋マグロ漁船を見学した。大きな船の設備を見学したり、船上からの眺めを楽しんだりしながら水産業に親しんだ。

同幼稚園では、「気仙沼の魚を学校給食に普及させる会」(代表・白井壯太郎白福本店社長)の協力で毎年、年長組が大型の漁船を見学。今回は年長組の40人に加え、保護者が初めて参加した。見学した漁船は、白福本店所有の第8昭福丸(409ト)。参加者は甲板に集まった後、白井代表から船が世界中で漁をしていることや、仕掛けるはえ縄の長さが140キリと、およそ気仙沼から仙台までの長さがあることなどの説明を受

けた。驚いた表情を見せた。参加者は社員らの案内を受けながら、初めて入る機関室や船員室、設備に興味深そうに見て回ったほか、船橋(ブリッジ)上で見る気仙沼湾の景色に歓声を上げた。食堂では食事の時間をベルで乗組員に知らせることな

どを学んだ。操舵(そうだ)室の設備が気に入りだっただ佐々木広大君(5)は「自分でも船を動かしてみたい」と笑顔。母の美雪さん(36)は「限られたスペースに必要なものが全て入っていて、すごいと感じた」と話していた。